



## **Prime Collaboration Deployment による Cisco Unified Communications Manager Release 11.0(1) への移行**

初版：2015年06月22日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



## 目次

### 移行の準備 1

はじめに 1

MI 移行について 1

移行準備チェックリスト 2

ライセンスング 3

互換性の確認 3

仮想化の要件 4

ソフトウェア ダウンロード 4

設定およびログイン情報 5

クラスタ登録 6

セキュリティ トークン 6

テスト計画 6

Cisco Unified Communications Manager のバックアップ 6

### アップグレード、移行、および設定 7

アップグレードプロセス 7

現在のリリースからリリース 6.1(5) または 7.1(5) へのアップグレード 8

仮想マシンへの Prime Collaboration Deployment の展開 10

Cisco Unified Communications Manager クラスタを最新リリースに移行するための Prime Collaboration Deployment の設定 10

ESXi ホスト サーバの追加 12

既存クラスタの検出 12

移行クラスタの定義 13

移行タスクの追加 15

最新リリースへの Cisco Unified Communications Manager の移行 16

### ロールバック 19

以前のリリースへのロールバック 19

### リンクおよび参考資料 21

[リンクおよび参考資料](#) 22



## 第 1 章

# 移行の準備

---

- [はじめに, 1 ページ](#)
- [M1 移行について, 1 ページ](#)
- [移行準備チェックリスト, 2 ページ](#)

## はじめに

Cisco Prime Collaboration Deployment は、Unified Communications アプリケーション用の移行アプリケーションです。リリース 10.0(1) 以降、Cisco Unified Communications Manager は仮想マシンのみをサポートし、物理サーバをサポートしません。Prime Collaboration Deployment を使用すると、物理サーバに展開されている既存のクラスターを仮想マシン上の最新の Cisco Unified Communications Manager リリースに移行できます。10.0(1) 以前の Cisco Unified Communications Manager クラスターが物理マシンで動作しており、Prime Collaboration Deployment を使用して、仮想マシンで動作する最新リリースの Cisco Unified Communications Manager に移行する場合、このプロセスは M1 移行と呼ばれます。

本書では、次のリリースから最新の Cisco Unified Communications Manager リリースに移行する手順について説明します。

- リリース 6.1(5)、7.1(3)、7.1(5)、8.0(1–3)、8.5(1)、8.6(1–2)、9.0(1)、9.1(1–2)

## M1 移行について

Prime Collaboration Deployment による最新の Cisco Unified Communications Manager リリースへの移行は、「はじめに」の項に記載されているバージョンの Cisco Unified Communications Manager でのみサポートされます。リリース 4.1(3)、4.2(3)、4.3(2)、5.1(2)、5.1(3)、6.0(1)、6.1(1)、6.1(2)、6.1(3)、7.0(1)、7.0(2)、7.1(2) から最新の Unified Communications Manager リリースへの直接アップグレードはサポートされていません。

これらのリリースの場合は、M1 移行手順を使用して最新の Unified Communications Manager リリースに移行する前に、中間リリースにアップグレードする必要があります。次の作業を行って、移行を実行します。

- 1 中間リリースとして Unified Communications Manager Release 6.1(5) または 7.1(5) にアップグレードします。
- 2 仮想マシンに Prime Collaboration Deployment を展開します。
- 3 Prime Collaboration Deployment for Cisco Unified Communications Manager クラスタを最新リリースに移行する準備をします。
- 4 Prime Collaboration Deployment を使用して最新の Unified Communications Manager リリースに移行します。

本書の移行プロセスは、次の環境の Unified Communications Manager クラスタに適用できます。

- 次の Unified Communications Manager リリースのいずれかがインストールされている：リリース 4.1(3) ~ 4.3(2)、リリース 5.1(2) ~ 5.1(3)、リリース 6.0(1) ~ 7.1(5)、またはリリース 8.0(1) ~ 9.1(2)
- Unified Communications Manager クラスタが Cisco Media Convergence Server (MCS) サーバにインストールされている。
- Unified Communications Manager のアップグレードに対して、IP アドレスやホスト名を変更する必要がない。IP アドレスまたはホスト名の変更が必要な場合は、本書では説明していない追加の手順を実行する必要があります。詳細については、『[Changing the IP Address and Hostname for Cisco Unified Communications Manager](#)』を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager の最新リリースへの移行は、実稼働ネットワークで実行されます。

## 移行準備チェックリスト

移行を開始する前に、次の情報を確認し、移行の要件をすべて満たしていることを確認してください。

- [ライセンスング](#)
- [互換性の確認](#), (3 ページ)
- [仮想化の要件](#), (4 ページ)
- [ソフトウェア ダウンロード](#)
- [設定およびログイン情報](#), (5 ページ)
- [クラスタ登録](#), (6 ページ)
- [セキュリティ トークン](#), (6 ページ)
- [テスト計画](#), (6 ページ)

- [Cisco Unified Communications Manager のバックアップ, \(6 ページ\)](#)

## ライセンスング

この移行手順には、Cisco Unified Communications Manager の最新リリース用のライセンスが必要です。

以前のバージョンから最新の Unified Communications Manager リリースに移行する前に、移行開始以前に購入したライセンス ファイルをすべて Unified Communications Manager にインストールしてください。以前に購入したライセンス ファイルを一部しかインストールしなかった場合、未請求のライセンスはアップグレードした Unified Communications Manager で使用できません。アップグレード後にライセンスを再インストールすることはできません。

ハイアベイラビリティをサポートするために、Unified Communications Manager クラスタは、ライセンスなしで 60 日間、フル機能のデモ モードで動作します。60 日後も、Unified Communications Manager クラスタは動作を継続してコールをルーティングしますが、関連する Enterprise License Manager (PLM) で有効なライセンスが利用可能になるまで、デバイスやユーザを追加または削除する機能は無効になります。

詳細については、次の Migration Central に掲載されているライセンスのドキュメントを参照してください。

<https://communities.cisco.com/community/partner/collaboration/migration/blog/2013/04/15/license-migration>

ライセンスを取得するには、次のリンクを参照してください。

[License User Interface](#)

## 互換性の確認

エンドポイント、ゲートウェイ、ボイスメール、プレゼンス、その他のアプリケーションなど、組織で使用されているデバイスとアプリケーションのバージョンがこのリリースの Unified Communications Manager でサポートされているかどうかを調べるには、次の情報を確認してください。

『[Cisco Unified Communications System Release Summary Matrix for IP Telephony](#)』

『[Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix](#)』

アップグレードする際は、Cisco IM and Presence Service、Attendant Console、Cisco Contact Center Express (UCCX)、Cisco Emergency Responder (CER) など、アプリケーションの互換性を検討することをお勧めします。

IM and Presence は、Cisco Unified Communications Manager と同じメンテナンス時間帯にアップグレードする必要があります。互換性の詳細については、次のドキュメントを参照してください。

『[Compatibility Information for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager](#)』

サードパーティ製アプリケーションの場合は、次のリンクのアプリケーションカタログを参照して、このリリースの Unified Communications Manager がそのアプリケーションに対応していることを確認します。使用しているアプリケーションがカタログに記載されていない場合は、アプリ

ケーションがこのリリースの Unified Communications Manager と互換性があることをベンダーに確認してください。

[『Developer Network Marketplace Solutions Catalog』](#)

ご使用の Unified Communications Manager の中間リリースおよび対象リリースについて、未解決の不具合の一覧を確認することを強くお勧めします。これらは、機能や他のアプリケーションとの統合に影響する可能性があります。未解決の不具合の一覧は、次の URL のリリース ノートに記載されています。

[『Cisco Unified Communications Manager Release Notes』](#)

## 仮想化の要件

仮想化に対応したユニファイドコンピューティングサーバ (UCS) システムを設計する必要があります。大部分の展開では高可用性が必要であるため、UCS サーバの種類と数を計画する必要があります。また、ストレージ、サーバの接続、ESXi のバージョンも計画する必要があります。仮想環境の設計に関する詳細は、次のリンクで参照できます。

[Before you buy or deploy-Considerations for Design and Procurement](#)

UCS サーバは外部保留音ソースをサポートしません。UCS サーバで仮想化された Unified Communications Manager クラスタを使用する場合は、同様のサービスへの影響を考慮してください。

また、次の場所にある、Unified Communications Manager Release 8.0(2) 以降の仮想化サポートに関する資料も参照することをお勧めします。

[http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified\\_Communications\\_in\\_a\\_Virtualized\\_Environment](http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_in_a_Virtualized_Environment)

[http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified\\_Communications\\_VMware\\_Requirements](http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_VMware_Requirements)

Prime Collaboration Deployment の展開に対する仮想化ライセンス要件を確認してください。

[Virtualization software license requirements for PCD.](#)

## ソフトウェア ダウンロード

アップグレードの準備をするには、次の場所から下記のソフトウェアをすべてダウンロードします。

<http://software.cisco.com/download/navigator.html?mdfid=268439621&flowid=37562>

- 最新リリースの Cisco Unified Communications Manager ブート可能イメージ
- 最新リリースの Current release of Cisco Prime Collaboration Deployment vApp
- アップグレードプロセス中に中間リリースとして使用するバージョンに応じて、Cisco Unified Communications Manager Release 6.1(5) または Release 7.1(5) のアップグレードイメージ
- 最新の Unified Communications Manager リリース用電話機ファームウェア
- 最新の Cisco Unified Communications Manager リリースのデバイス パッケージ



- (任意) 最新の Cisco Unified Communications リリースのローカル言語用ロケールインストーラ
- 最新の Unified Communications Manager リリース用仮想サーバ テンプレート (OVA ファイル)
- 現在の Unified Communications Manager リリース用 Cisco Unified Communications Manager リカバリ ソフトウェア
- Unified Communications Manager Release 4.1(3)、4.2(3)、4.3(1) の場合  
Cisco Unified Communications Manager Data Migration Assistant (DMA) 6.1(4)  
Cisco CallManager Upgrade Assistant 4.3(13)

次の場所からソフトウェアをダウンロードします。

<http://tools.cisco.com/gct/Upgrade/jsp/index.jsp>

- Unified Communications Manager Release 6.1(5) のブート可能バージョン (Unified Communications Manager Release 4.x を実行している場合にのみ該当)

## 設定およびログイン情報

アップグレード手順の実行時に問題が発生した場合は、現行の Unified Communications Manager ノードの現在の設定とログイン情報を文書化します。次の情報を取得する前に、Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) と Syslog を確認し、エラーに対処します。

- IP アドレス、ホスト名、ゲートウェイ、ドメイン名、DNS サーバ、NTP サーバ、SMTP 情報
- 管理者、クラスタセキュリティ、証明書信頼リスト (CTL) のセキュリティ トークン パスワード
- サーバのバージョンおよびタイムゾーン
- 各サーバで実行されているすべてのサービスおよび関連するアクティベーションステータス
- コール詳細レコードのサーバ設定と追加情報
- LDAP 情報およびアクセスの詳細
- SNMP 情報

RTMT または Unified Communications Manager のデバイス数サマリーを使用して登録数を確認します。Unified Communications Manager ノードごとに、表示される各デバイス タイプの数を記録します。たとえば、登録されている IP 電話とゲートウェイのタイプごとの数、および各 FXS、FXO、TICAS、PRI、MOH、MTP、CFB、または XCODE デバイス リソース。

## クラスタ登録

本書では、Unified Communications Manager クラスタに、IP 電話機やデバイスが登録されていない Unified Communications Manager パブリッシャと Unified Communications Manager TFTP ノードが含まれると想定しています。すべての登録は、クラスタ内のプライマリ Unified Communications Manager サブスクリイバに対するものです。バックアップ Unified Communications Manager サブスクリイバは、登録の完全な冗長性のために使用されます。2 ノードのクラスタ展開では、パブリッシャ ノードが TFTP サーバとバックアップ サブスクリイバになることがあります。

## セキュリティ トークン

クラスタが混合モードクラスタの場合は、既存のセキュリティ証明書のトークンを見つけ、トークン情報を記録します。

セキュアクラスタを実行しているかどうかを確認するには、現在使用しているリリースの『[Cisco Unified Communications Manager Security Guide](#)』に記載されている手順を実行します。

## テスト計画

アップグレードする前や直接アップグレードの前に実行する、ポストアップグレードテスト計画を作成します。たとえば、さまざまな使用例に該当する一連のテストを計画することもできます。アップグレードの前後に同じテストを実行します。これにより、アップグレードの前および後に、予想される Unified Communications Manager の操作機能を確認することができます。

## Cisco Unified Communications Manager のバックアップ

アップグレードの前に、クラスタ全体のディザスタリカバリシステム (DRS) バックアップを実行することを強く推奨します。最新のバックアップなしでアップグレードすると、アップグレードプロセス中に問題がある場合に、データの損失、ノード設定の損失、またはサービスの中断が発生する可能性があります。DRS バックアップ手順の詳細については、Cisco.com で『[Disaster Recovery System Administration Guide](#)』を参照してください。



## 第 2 章

# アップグレード、移行、および設定

- [アップグレードプロセス, 7 ページ](#)
- [現在のリリースからリリース 6.1\(5\) または 7.1\(5\) へのアップグレード, 8 ページ](#)
- [仮想マシンへの Prime Collaboration Deployment の展開, 10 ページ](#)
- [Cisco Unified Communications Manager クラスタを最新リリースに移行するための Prime Collaboration Deployment の設定, 10 ページ](#)
- [最新リリースへの Cisco Unified Communications Manager の移行, 16 ページ](#)

## アップグレード プロセス

リリース 4.1(3)、4.2(3)、4.3(2)、5.1(2)、5.1(3)、6.0(1)、6.1(1)、6.1(2)、6.1(3)、7.0(1)、7.0(2)、7.1(2) から最新の Unified Communications Manager リリースに直接アップグレードすることはできません。これらのリリースの場合は、次の表に示すリリースにアップグレードしてから移行を実行します。

現在のリリース	アップグレード先
4.1(3)、4.2(3)、4.3(2)	7.1(5) (DMAを使用)
5.1(3)、6.1(3)、6.1(4)	6.1(5)
5.1(2)、6.1(1)、6.1(2)	6.1(3)にアップグレードしてから、6.1(5)にアップグレードします (複合アップグレード)。
6.0(1)	6.1(2)、6.1(3)、6.1(5)の順にアップグレードします (複合アップグレード)。
7.0(1)	7.0(2)にアップグレードしてから、7.1(5)にアップグレードします (複合アップグレード)。

現在のリリース	アップグレード先
7.0(2)、7.1(2)	7.1(5)

次の段階を実行して移行を完了させます。

- 1 中間リリースとして Unified Communications Manager Release 6.1(5) または 7.1(5) にアップグレードします。
- 2 仮想マシンに Prime Collaboration Deployment を展開します。
- 3 Prime Collaboration Deployment for Cisco Unified Communications Manager クラスタを最新リリースに移行する準備をします。
- 4 Prime Collaboration Deployment を使用して最新の Unified Communications Manager リリースに移行します。

リリース 6.1(5)、7.1(3)、7.1(5)、8.0(1-3)、8.5(1)、8.6(1-2)、9.0(1)、9.1(1-2) からのアップグレード

- 1 現在リリース 6.1(5)、7.1(3)、7.1(5)、8.0(1-3)、8.5(1)、8.6(1-2)、9.0(1)、9.1(1-2) がインストールされている場合は、中間リリースにアップグレードする必要はありません。次の段階を実行して移行を完了させます。
  - a 仮想マシンに Prime Collaboration Deployment を展開します。
  - b Prime Collaboration Deployment for Cisco Unified Communications Manager クラスタを最新リリースに移行する準備をします。
  - c Prime Collaboration Deployment を使用して最新の Unified Communications Manager リリースに移行します。

## 現在のリリースからリリース 6.1(5) または 7.1(5) へのアップグレード

次のリリースのいずれかから Unified Communications Manager Release 6.1(5) または 7.1(5) にアップグレードするには、以下の手順を実行します。

- リリース 5.1(3)
- リリース 6.1(2)、6.1(3)、6.1(4)
- リリース 7.0(2) および 7.1(2)

## 手順

- 
- ステップ 1** すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。
- ステップ 2** クラスタのエクステンション モビリティを無効にします。
- ステップ 3** 現在のクラスタの DRS バックアップを実行します。
- ステップ 4** パブリッシャ ノードを Unified Communications Manager の現在のリリースからターゲット リリースにアップグレードし、自動再起動に対して [いいえ (No) ] を選択します。
- ステップ 5** 専用 TFTP ノードをアップグレードし、次に、クラスタのバックアップ サブスクリバノードとプライマリ サブスクリバノードをアップグレードします。これらのアップグレード時は、自動再起動に対して [いいえ (No) ] を選択します。
- ステップ 6** アップグレードされたパーティションにパブリッシャ ノードを切り替えます。
- ステップ 7** Unified Communications Manager Release 10.(1) に対応する電話機ファームウェアをパブリッシャにインストールします。パブリッシャ ノードが TFTP サーバでもある場合は、TFTP サービスを再起動します。
- ステップ 8** クラスタのデータベース レプリケーションが正常に完了したことを確認します。Cisco Unified Reporting または Cisco Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用します。詳細については、『*Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager, Release 9.1(1)*』の「Upgrade Tasks」の項を参照してください。
- ステップ 9** Unified Communications Manager グループ内での順序を変更して、クラスタ内の電話機とデバイスが登録にバックアップ サブスクリバノードを使用するように設定します。
- ステップ 10** すべてのプライマリ サブスクリバノードをアップグレードされたパーティションに切替えます。
- ステップ 11** プライマリ サブスクリバノードがアップグレードされたこと、およびデータベース レプリケーションが正常に完了したことを確認します。
- ステップ 12** Unified Communications Manager グループ内での順序を変更して、クラスタ内の電話機とデバイスが登録にプライマリ サブスクリバノードを使用するように設定します。デバイスプールを使用して順番にデバイスをリセットするか、またはバックアップ サブスクリバノードで Unified Communications Manager サービスを再起動して、プライマリ サブスクリバノードにデバイスを登録できるようにします。
- ステップ 13** クラスタ全体がアップグレードされたら、クラスタ全体のディザスタリカバリ システム (DRS) バックアップを実行します。
- ステップ 14** 仮想マシンに Prime Collaboration を展開します。詳細については、[仮想マシンへの Prime Collaboration Deployment の展開](#)を参照してください。
-

## 仮想マシンへの Prime Collaboration Deployment の展開

Cisco Prime Collaboration Deployment は個別の仮想マシンを必要とし、物理サーバではサポートされません。Prime Collaboration Deployment は vApp を使用して展開できます。vApp には OVA テンプレートとインストール ISO が 1 つのファイルにバンドルされています。

仮想化ソフトウェアのライセンス タイプ

Cisco Prime Collaboration Deployment には、VMware vSphere ESXi の一部のライセンス タイプとの互換性がありません。これは、VMware vSphere ESXi の一部のライセンスでは、必須の VMware API が有効にならないためです。移行機能に影響するため、Unified Communications Manager の最新リリースに必要な、Cisco Prime Collaboration Deployment および仮想マシンの次の ESXi ライセンス要件に注意してください。Cisco Unified Communications Manager Business Edition 6000 を使用しているお客様は、以下のライセンス要件の影響を受けます。

以下のライセンスは Cisco Prime Collaboration Deployment と互換性があります。

- Cisco UC Virtualization Foundation (vSphere Client では「Foundation Edition」と表示)
- VMware vSphere Standard Edition、Enterprise Edition、または Enterprise Plus Edition
- 評価モードのライセンス

### 手順

- 
- ステップ 1 vApp を使用して Prime Collaboration Deployment を展開します。
- ステップ 2 インストール手順の詳細については、次のマニュアルを参照してください：『[Installation of Cisco Prime Collaboration Deployment](#)』
- ステップ 3 Prime Collaboration を設定します。詳細については、[Cisco Unified Communications Manager クラスタを最新リリースに移行するための Prime Collaboration Deployment の設定](#)、(10 ページ) を参照してください。
- 

## Cisco Unified Communications Manager クラスタを最新リリースに移行するための Prime Collaboration Deployment の設定

既存の Cisco Unified Communications Manager クラスタを仮想マシンを実行する最新リリースにアップグレードすると同時に移行するには、移行タスクを使用します。

## 手順

- 
- ステップ 1** 新しいクラスタの仮想ハードウェア インフラストラクチャを展開し、ESXi をインストールします。
- ステップ 2** 最新の Unified Communications Manager リリース用の推奨 OVA とブート可能 .iso イメージを、Prime Collaboration Deployment サーバの /fresh\_install ディレクトリに SFTP 送信します。 **adminsftp** とプラットフォーム (OS) 管理パスワードを使用して、Prime Collaboration Deployment サーバに SFTP 接続します。
- ステップ 3** 最新の Unified Communications Manager Release リリース用のシスコ推奨 OVA を展開し、宛先クラスタ ノードのインストール用に空の VM を作成します。
- ステップ 2 でダウンロードした Cisco OVA を使用して、ESXi ホストに適切な数のターゲット仮想マシンを作成します (既存のクラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager サーバごとに 1 つの新規仮想マシン)。
  - 新規 VM でネットワークを設定します。
- ステップ 4** 仮想マシンを収容している ESXi ホストを Cisco Prime Collaboration Deployment インベントリに追加します。ESXi ホストのホスト名または IP アドレス、およびルート証明書を入力する必要があります。詳細については、[ESXi ホスト サーバの追加](#)、(12 ページ) の手順に従ってください。
- ステップ 5** 既存の Cisco Unified Communications Manager クラスタ (ソースクラスタ) がクラスタ インベントリに表示されるように、クラスタディスカバリを実行済みであることを確認します。詳細については、[既存クラスタの検出](#)、(12 ページ) の手順に従ってください。
- ステップ 6** 移行クラスタ ([インベントリ (Inventory)] > [クラスタ (Clusters)]) を作成し、MCS 送信元ノードとターゲット仮想マシン間のマッピングを定義します。詳細については、[移行クラスタの定義](#)、(13 ページ) の手順に従ってください。
- (注) 移行クラスタが作成されたら、すべての宛先ノードが同じホスト名またはアドレスを保持するようにするか、またはアドレスの一部を変更するかを指定します。Prime Collaboration Deployment は移行中の IP アドレスやホスト名の変更に対応していますが、本書の手順では移行中に IP アドレスやホスト名の変更がないと仮定しています。
- (注) すべての宛先ノード オプションに送信元ノードの設定を使用することは、移行において「単純な移行」と呼ばれています。
- ステップ 7** (任意) [管理 (Administration)] > [電子メール通知 (Email Notification)] に移動し、電子メール通知を設定します。
- 電子メール通知が設定されている場合、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバは、移行タスク中にエラー状態が発生するとそれを電子メールで送信します。
- ステップ 8** Prime Collaboration Deployment で移行タスクを作成します。詳細については、[移行タスクの追加](#) の手順に従ってください。
-

## ESXi ホストサーバの追加

### 手順

- 
- ステップ 1** Prime Collaboration Deployment のメニューから [インベントリ (Inventory)] > [ESXi ホスト (ESXi Hosts)] を選択します。
- ステップ 2** [ESXi ホスト (ESXi Hosts)] ページの最上部にある [ESXi ホストの追加 (Add ESXi Host)] ボタンをクリックします。[ホストサーバの追加 (Add Host Server)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** 次の情報を入力します。
- IP アドレスまたはホスト名
  - Root ログイン
  - Root パスワード
- ステップ 4** [OK] をクリックします。  
ESXi ホストが正常に追加されました。
- 

## 既存クラスタの検出

クラスタ検出機能を使用すると、Cisco Prime Collaboration Deployment はすでに Unified Communications Manager を実行しているサーバと通信して、そのクラスタ情報を Cisco Prime Collaboration Deployment インベントリに追加できます。

### 手順

- 
- ステップ 1** Prime Collaboration Deployment のメニューから [インベントリ (Inventory)] > [クラスタ (Clusters)] を選択します。
- ステップ 2** [クラスタ (Clusters)] ページの最上部にある [クラスタの検出 (Discover Cluster)] ボタンをクリックします。  
[クラスタの検出 (Discover Cluster)] ウィザードが表示されます。
- ステップ 3** 次の情報を入力します。
- クラスタのニックネーム
  - パブリッシャのホスト名または IP アドレス



(注) Unified Communications Manager と IM and Presence Service の両方のノードがあるクラスタの場合は、Unified Communications Manager パブリッシャを入力します。Prime Collaboration Deployment は IM and Presence Service ノードの移行に対応していますが、本書では Cisco Unified Communications Manager についてのみ説明します。

- OS 管理者ユーザ名
- OS 管理者パスワード

**ステップ 4** [次へ (Next) ] をクリックします。

Prime Collaboration Deployment がクラスタの検出を開始します。クラスタの検出には 5 分以上かかる場合があります。大規模なクラスタの検出には、さらに時間がかかる可能性があります。検出中、クラスタ内の各ノードが接続され、ノードに関する情報が記録されます。COP ファイル (ciscocm.ucmap\_platformconfig.cop) がクラスタ内のすべてのノードのアクティブなパーティションに自動的にインストールされるので、クラスタ データの取得に役立ちます。

ウィザードの手順 2 で、Cisco Prime Collaboration Deployment は、パブリッシャのサーバインベントリからクラスタノードのリストを生成します。このプロセスの実行には数分かかる場合があります。リストが生成されると、「クラスタ検出プロセスが完了しました (Cluster Discovery Process is complete) 」というメッセージが表示されます。

**ステップ 5** [次へ (Next) ] をクリックします。

**ステップ 6** (オプション) 各クラスタノードに機能を割り当てるには、[機能の割り当て (Assign Functions) ] をクリックします。

[機能の割り当て (Assign Functions) ] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 7** [機能の割り当て (Assign Functions) ] ダイアログボックスで、[前へ (Previous) ] または [次へ (Next) ] をクリックして修正するノードを選択します。

(注) [ホスト名 (hostname) ] フィールドに選択したノードが示されます。ノードごとに、1 つまたは複数の機能を割り当て、[メモ (Notes) ] フィールドに機能の割り当てに関するメモを追加できます。機能を割り当てることによって各ノードの機能を定義できますが、これはアクティブ化されるサービスには影響しません。ただし、この情報はタスクのデフォルトのシーケンスを決めるために使用できます。

**ステップ 8** 必要な機能をすべて割り当てたら、[OK] をクリックします。

**ステップ 9** [終了 (Finish) ] をクリックします。  
クラスタが正常に検出されました。

## 移行クラスタの定義

移行タスクを作成する前に、移行クラスタを作成する必要があります。移行クラスタを定義することによって、検出された現在の Cisco Unified Communications Manager クラスタ ノード (「クラスタの検出」を参照) と、移行するクラスタをホストするために使用される新しい VM からマッピングを作成します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Prime Collaboration Deployment のメニューから [インベントリ (Inventory) ] > [クラスタ (Clusters) ] を選択します。これまでに検出された (または定義された) クラスタが表示されます。
- ステップ 2** [移行宛先クラスタの定義 (Define Migration Destination Cluster) ] をクリックして、[移行宛先クラスタの定義 (Define Migration Destination Cluster) ] ウィザードを開始します。
- ステップ 3** [宛先クラスタの設定 (Configure Destination Cluster) ] ウィザードのステップ 1 を完了します。
- ドロップダウンリストからソース クラスタを選択します。
  - [宛先クラスタ名 (Destination Cluster Name) ] フィールドに名前を入力します。
  - 適切な [宛先ネットワークの設定 (Destination Network Settings) ] オプションを選択します  
(注) ネットワーク オプションを保持するには、[すべての宛先ノードに対して送信元ノードのネットワークを使用 (Use the source node network settings for all destination nodes) ] オプション ボタンを選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next) ] をクリックします。
- ステップ 5** [宛先クラスタ ノードの割り当て (Assign Destination Cluster Nodes) ] ボタンをクリックして [宛先クラスタの設定 (Configure Destination Cluster) ] ウィンドウを開きます。
- ステップ 6** 各送信元ノードに対して宛先 VM を選択することによって、宛先クラスタを設定します。リストされている送信元ノードのホスト名がページ上部に表示されます。
- VM の横にあるオプション ボタンをクリックして、このノードの VM を選択します。
  - クラスタの次のノードに移動するには、[次のノード (Next Node) ] ボタンをクリックします。クラスタに複数のノードがある場合は、ソースクラスタ内のノードごとにこれらの手順を実行する必要があります。
- ステップ 7** すべてのノードに宛先 VM が割り当てられたら、[完了 (Done) ] をクリックして [宛先クラスタの設定 (Configure Destination Cluster) ] ウィンドウを閉じます Prime Collaboration Deployment に、クラスタ内の送信元ノード (このノード用の宛先 VM の横に一覧表示) と IP アドレスが表示されます。
- ステップ 8** 情報が正しい場合は、[次へ (Next) ] をクリックして、ウィザードのステップ 3 に進みます。
- ステップ 9** [NTP/SMTP の設定 (Configure NTP/SMTP settings) ] ウィンドウで、移行タスクの実行時に移行ノードに適用されるネットワーク タイムプロトコル (NTP) サーバの設定と、SMTP サーバの設定を入力します。
- ステップ 10** [次へ (Next) ] をクリックします。  
[移行宛先の定義 (Define Migration Destination) ] ウィザードのステップ 4、[DNS の設定 (Configure DNS Settings) ] が開きます。移行クラスタ ノードの DNS 設定オプションが示されます。
- ステップ 11** ノードの DNS 設定を変更するには、テーブルから 1 つ以上のノードを選択し、[DNS 設定の割り当て (Assign DNS Settings) ] ボタンをクリックします。プライマリおよびセカンダリ DNS とドメインを入力し、[OK] をクリックして変更を適用します。
- ステップ 12** [Finish (完了) ] をクリックするとウィザードが閉じられ、変更が保存されます。新しいクラスタ定義が「移行」クラスタタイプのクラスタ インベントリに追加されます。
-

## 移行タスクの追加

### 手順

- ステップ 1** メインメニューから[タスク (Tasks)] > [移行 (Migrate)] を選択します。
- ステップ 2** [移行タスクの追加 (Add Migration Task)] をクリックします。[移行タスクの追加 (Add Migration Task)] ウィザードが表示されます。
- ステップ 3** [ソース UC クラスタ (Source UC Cluster)] ドロップダウンリストから、宛先クラスタまたは移行マップを選択します。移行マップが選択したソース クラスタに関連付けられます。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [移行ファイルの選択 (Choose Migration Files)] セクションで、宛先クラスタにインストールする Cisco Unified Communications Manager ISO ファイルを参照して選択します。  
[移行ファイルの選択 (Choose Migration Files)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 6** リストから ISO ファイルを選択し、[OK] をクリックします。
- ステップ 7** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8** [開始時刻の設定 (Set Start Time)] セクションで、次のオプションのいずれかを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- [開始時刻をスケジュール (Schedule a start time)]
  - [ただちにタスクを開始 (Start the task immediately)]
  - [特定の時点で手動でタスクを開始 (Start the task manually at some point in the future)] 移行に対して手動でタスクを開始する場合は、このオプションを選択します。
- ステップ 9** [移行手順の指定 (Specify Migration Procedure)] セクションで、移行タスクのシーケンスを設定します。推奨シーケンスは以下のとおりです。
- a) パブリッシュ ノードを移行します。一時停止を追加します。
  - b) 環境に専用の TFTP ノードが展開されている場合は、専用 TFTP ノードを移行します。
  - c) すべてのバックアップ サブスクライバ ノードを移行します。一時停止を追加します。
  - d) すべてのプライマリ サブスクライバ ノードを移行します。
- 移行タスクの作成時には、デフォルトのシーケンスが Prime Collaboration Deployment に表示されます。このシーケンスには、インストールステップごとに 1 つのサーバが含まれています。編集ツールを使用して、1 つのステップに複数のサーバを配置できます。最適な結果を得るために、1 つのステップに含めるサーバの数は 6 つ以下にしてください。
- 鉛筆アイコン：[手順の編集 (Edit Step)] ウィンドウを開きます。
  - ページアイコン：現在のステップの後に新しいステップを追加します。
  - X：現在のステップを削除します。
  - 上矢印：先に実行するステップを上に移動します。

- 下矢印：後で実行するステップを下に移動します。

(注) [手順の編集 (Edit Step)] ウィンドウで、利用可能なノードのリストから移行するノードを追加できます。

- 各ノードが割り当てられる手順はノードの横に表示されます。どのステップにも割り当てられていないノードは、未割り当てと表示されます。
- [手順完了後タスクを一時停止 (Pause task after step completes)] オプションは、このステップの完了後にタスクを一時停止します。このオプションを選択した場合、タスクを続行するには、次のステップを手動で開始する必要があります

**ステップ 10** [次へ (Next)] をクリックします。

**ステップ 11** 選択を確認します。[確認 (Review)] セクションには、新しい移行タスクにメモを追加するオプションもあります。

**ステップ 12** [完了 (Finish)] をクリックして、新しい移行タスクを追加します。タスクが [移行 (Migrate)] 画面のテーブルに表示されます。

**ステップ 13** Unified Communications Manager クラスタの DRS バックアップを実行します。

**ステップ 14** [最新リリースへの Cisco Unified Communications Manager の移行](#), (16 ページ) に進みます。

## 最新リリースへの Cisco Unified Communications Manager の移行

これまでにセクション 8 の一環として完了させた設定はサービスを中断させません。また、この設定では、最新の Unified Communications Manager クラスタへの移行をサポートするために Prime Collaboration Deployment の設定を行いました。Prime Collaboration Deployment を使用して既存の Unified Communications Manager リリースを最新リリースに移行するには、以下の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager クラスタでのすべての設定作業を停止します。アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。

**ステップ 2** クラスタのエクステンション モビリティを無効にします。

**ステップ 3** Prime Collaboration Deployment にログインし、[モニタリング (Monitoring)] をクリックして、タスクのステータスを表示します。  
タスクはタスク リストに表示されますが、手動で起動されるまで待機しています。

**ステップ 4** 移行タスクの各ステップの詳細な実行状況を表示するには、タスク ステップの横にある黒い三角形をクリックします。

(注) 手動で起動した場合は、タスクに[検証 (Validation)] ボタンが関連付けられています。タスクを実行する前に、[検証 (Validation)] ボタンを使用してタスクを検証するのがベストプラクティスです。タスクに問題がある場合は (ISO ファイルの欠落、VM がオフ状態ではないなど)、検証によりアラートが示されるので、タスクの開始前に問題を解決できます。

すべてのテストに合格すると、「すべての検証テストに合格しました (All Validation Tests Passed)」と表示されます。

- ステップ 5** この手動タスクに関連付けられている [スタート (Start)] ボタンをクリックします。最初の Unified Communications Manager パブリッシャが移行されます。Prime Collaboration Deployment によって、現在の Unified Communications Manager パブリッシャが自動的にシャットダウンされます。
- パブリッシャが最新の Cisco Unified Communications Manager リリースに正常に移行されると、移行タスクは一時停止します。
- ステップ 6** 最新の Unified Communications Manager リリースを実行しているパブリッシャにログインし、以前のリリースで有効化されていたすべてのサービスが引き続き動作していることを確認します。
- ステップ 7** [再開 (Resume)] をクリックして移行を続行します。
- 移行タスクによって、専用 TFTP ノードとすべてのバックアップサブスクリバノードが最新の Unified Communications Manager リリースに移行されます。Prime Collaboration Deployment によって、MCS サーバで動作している対応ノードがシャットダウンされます。
- 専用 TFTP ノードとバックアップサブスクリバノードが移行されると、移行タスクは一時停止します。
- ステップ 8** パブリッシャと TFTP ノード、バックアップサブスクリバノード間にデータベースレプリケーションがセットアップされ、正常に完了したことを確認します。
- (注) データベースレプリケーションの回数は、データベースのサイズによって異なります。プライマリ サブスクリバノードは最新の Unified Communications Manager リリースにまだ移行されていないため、それらのデータベース同期は完了していません。Cisco Unified Reporting または Cisco Real Time Monitoring Tool を使用します。詳細については、『*Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Standard Upgrade Tasks」の項を参照してください。
- ステップ 9** Unified Communications Manager グループ内での順序を変更するか、デバイスプールを使用して、クラスタ内の電話機やデバイスが登録にバックアップサブスクリバノードを使用するように設定します。
- ステップ 10** [再開 (Resume)] をクリックして移行を続行します。
- 移行タスクによって、すべてのプライマリ サブスクリバノードが最新リリースに移行されます。Prime Collaboration Deployment によって、MCS サーバで動作している対応ノードがシャットダウンされます。

MCS ハードウェアで動作しているプライマリ サブスクライバ ノードがシャットダウンされるため、この時点で、すべての IP 電話およびデバイスが、最新リリース上のバックアップサブスクライバ ノードに登録されます。

- ステップ 11** すべてのプライマリ サブスクライバ ノードが最新の Cisco Unified Communications Manager リリースに正常に移行されたら、パブリッシャとすべてのノード間にデータベース レプリケーションがセットアップされており、それが良好な状態であることを確認します。
- ステップ 12** Unified Communications Manager グループ内での順序を変更して、クラスタ内の電話機とデバイスが登録にプライマリ サブスクライバ ノードを使用するように設定します。 デバイスプールを使用して順番にデバイスをリセットするか、またはバックアップ サブスクライバ ノードで Unified Communications Manager サービスを再起動すると、プライマリ サブスクライバ ノードにデバイスを登録できるようになります。
- ステップ 13** 『*Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Post-upgrade tasks」の項で推奨されているように、最新の Cisco Unified Communications Manager リリースのダイヤルプランとロケールをインストールします。 詳細については、『*Prime Collaboration Deployment Administration Guide*』を参照してください。
- ステップ 14** 「アップグレード前の一般手順」に関する項に従ってデータベース レプリケーションのタイムアウト値を変更した場合は、タイムアウトをデフォルト値に戻します。 アップグレードの開始時にオフにしたエクステンション モビリティを有効にします。
- ステップ 15** 仮想化された Unified CM クラスタ サービスとデバイス登録が動作していることを確認します。 この時点で、仮想 Unified CM クラスタ全体が最新リリース上にあります。
- ステップ 16** 既存の Unified CM ライセンスを最新の Unified CM リリースのライセンスに移行します。  
(注) このライセンス移行手順の完了期限は 60 日以内です。 詳細については、<https://tools.cisco.com/SWIFT/LicensingUI/Home> を参照してください。
- ステップ 17** ポストアップグレードテスト計画を実行します。  
ポストアップグレードテスト計画が正常に完了したら、最新の Cisco Unified Communications Manager リリースへの移行は完了です。
- ステップ 18** クラスタの DRS バックアップを実行します。
-



## 第 3 章

# ロールバック

- ・ [以前のリリースへのロールバック](#), 19 ページ

## 以前のリリースへのロールバック

アップグレード中に問題が発生し、アップグレード前のバージョンにロールバックする必要がある場合は、『*Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

移行は Prime Collaboration Deployment を使用して実行されたため、MCS サーバで引き続き元の Cisco Unified Communications Manager クラスタを利用できますが、クラスタはシャットダウン状態にあります。以前のバージョンへのロールバックには、仮想マシンで実行されている前リリースの Cisco Unified Communications Manager ノードのシャットダウン、および MCS サーバでの前リリースの Cisco Unified Communications Manager ノードの起動が関連します。エンドユーザに対する長時間のダウンタイムを避けるために、このプロセスは順序立てて実行する必要があります。Cisco Unified Communications Manager 8.0(x) 以前のリリースへのロールバックについては、下記の情報を確認してください。

クラスタを 8.0(x) 以前のリリースに戻す場合は、セキュリティ関連の重要な変更について説明している下記のマニュアルを参照してください。

『[Migrating IP Phones Between Clusters with Cisco Unified Communications Manager 8 and ITL Files](#)』

『[Rolling Back the Cluster to a Pre-8.0 Release](#)』

ロールバックが完了したら、再度テスト計画を実行して、すべてのサービスと機能が予想どおりに機能していることを確認します。







## 第 4 章

# リンクおよび参考資料

---

詳細については、次のマニュアルを参照してください。

インストール、アップグレード、および移行

[『Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide』](#)

[『Installing Cisco Unified Communications Manager』](#)

[『Install and Upgrade Guides for Cisco Unified Communications Manager』](#)

[『Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager』](#)

仮想サーバの Cisco Unified Communications Manager

互換

[『UC Virtualization Supported Hardware』](#)

[『Compatibility Information Cisco Unified Communications Manager 10.x』](#)

ネットワークの設計と展開

[『Cisco Collaboration Systems 10.x Solution Reference Network Designs \(SRND\)』](#)

Cisco Prime Collaboration Deployment のベストプラクティスについては、『[Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide](#)』を参照してください。

ライセンスング

[『Release Notes for Cisco Prime License Manager』](#)

[『Cisco Software Licensing Portal Changes Quick Reference Guide』](#)

リリース情報

[『Cisco Unified Communications Manager Release Notes』](#)

電話機ファームウェアに関するリリースノート。『[The Cisco Unified Communications System Release Summary Matrix for IP Telephony](#)』には、すべての Cisco Unified Communications Manager リリースの推奨電話機ファームウェアバージョンが要約されています。

『[Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』

トラブルシューティング

『[Database Replication Error in Cisco Unified Communications Manager](#)』

- [リンクおよび参考資料](#), 22 ページ

## リンクおよび参考資料

詳細については、次のマニュアルを参照してください。

インストール、アップグレード、および移行

『[Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide](#)』

『[Installing Cisco Unified Communications Manager](#)』

『[Install and Upgrade Guides for Cisco Unified Communications Manager](#)』

『[Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』

仮想サーバの Cisco Unified Communications Manager

互換

『[UC Virtualization Supported Hardware](#)』

『[Compatibility Information Cisco Unified Communications Manager 10.x](#)』

ネットワークの設計と展開

『[Cisco Collaboration Systems 10.x Solution Reference Network Designs \(SRND\)](#)』

Cisco Prime Collaboration Deployment のベストプラクティスについては、『[Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide](#)』を参照してください。

ライセンスング

『[Release Notes for Cisco Prime License Manager](#)』

『[Cisco Software Licensing Portal Changes Quick Reference Guide](#)』

リリース情報

『[Cisco Unified Communications Manager Release Notes](#)』

電話機ファームウェアに関するリリースノート。『[The Cisco Unified Communications System Release Summary Matrix for IP Telephony](#)』には、すべての Cisco Unified Communications Manager リリースの推奨電話機ファームウェアバージョンが要約されています。

『[Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』

#### トラブルシューティング

『[Database Replication Error in Cisco Unified Communications Manager](#)』

